

利尻山

○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動は静穏な状況です。

○ 概況

・ 火口や噴気の状況（図 1～図 3）

24 日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。

山頂および山麓に噴気は認められませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、火山活動を示すような地熱域は認められませんでした。

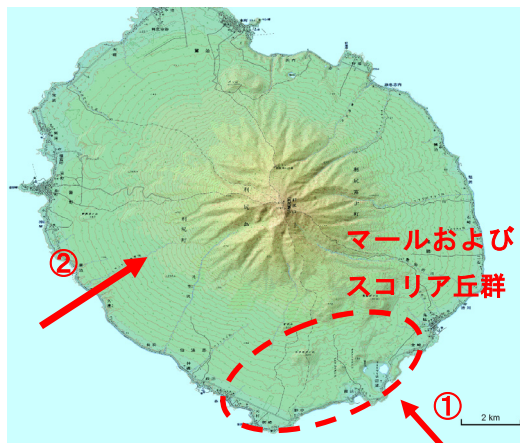


図 1 利尻山 周辺図

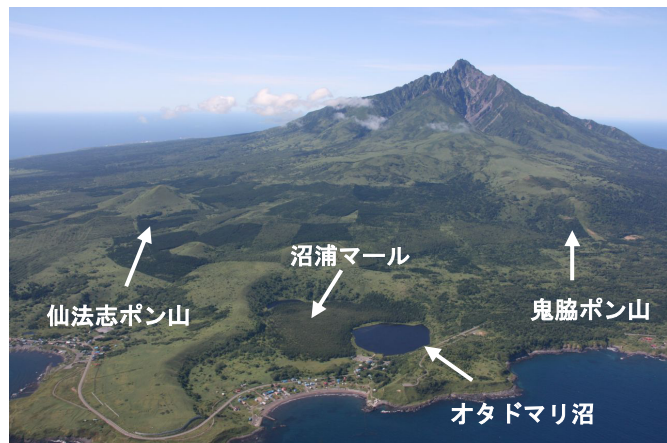


図 2 利尻山 南山麓のマール及びスコリア丘群
(8 月 24 日 図 1 ①方向から撮影)

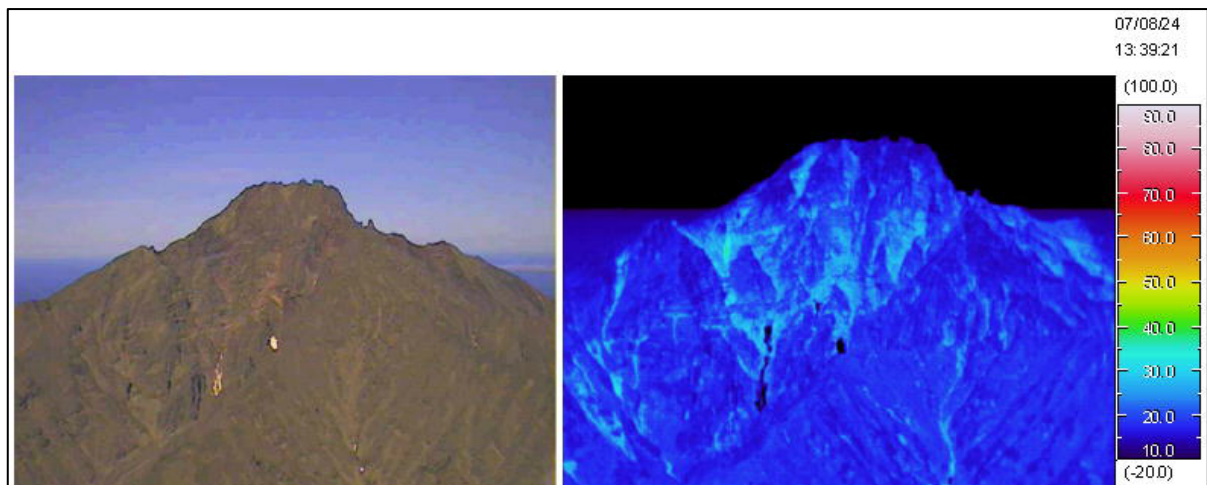


図 3 利尻山 赤外熱映像装置¹⁾による山頂付近の表面温度分布
(8 月 24 日 図 1 ②方向から撮影)

1)赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

参考：利尻山は 20 万年前頃に活動を開始し、約 4 万年前までに主要な火山体を形成させ、利尻島の大部分を構成しています。最後の噴火は、玄武岩質マグマからなるマール（オタドリ沼を含む沼浦マール等）の形成（約 7000 年前以前）、及び小規模なスコリア丘群（鬼脇ボン山、仙法志ボン山等）の形成（2000～8000 年前以前）とそれに伴う溶岩流の流出が南山麓で発生したと推定されています。

現在では、噴気活動を含めて一切の火山活動を示す兆候は認められず、記録に残る火山活動もありません。

（出典：石塚吉浩（1999） 北海道北部、利尻火山の形成史、火山）